

第3回美里町立小学校建設検討委員会概要録

招 集 期 日	令和7年7月23日（水曜日）
招 集 場 所	美里町役場 2階 201会議室
開 会 閉 会	開会 午前10時 閉会 午前11時45分
出 席 委 員	櫻沢 保（委員長）、横関 賢治（副委員長）、 新井 英行、櫻沢 克幸、櫻井 重美、深町 元秀、 大澤 桂子、岩片 利彦、原口 秀明、大澤 勇、逸見 猛、 根岸 千晴、江森 貴文、高田 真清、高橋 洋
欠 席 委 員	山下 和昌、関谷 剛、下田 裕美
説明のために 出席した者	事務局 教 育 長 木村 健治、事務局長 上山 友子、 指導主事 神部 太輔、指導主事 熊谷 青士、 係 長 新井 大樹、主 査 細村 知樹、 株式会社E A（美里町立小学校統合基本計画策定業務委託 受 託業者） 東海林 健、佐藤 博迪
傍 聴 人	0人

次第	内容	
1 開会	事務局 （局長）	定刻となったので開会する。 本日の会議の進行は事務局長が行う。
2 あいさつ	委員長	本日の会議は、先進地視察の報告、小中一貫校のメリット、必要教室数、校舎配置計画等について審議をいただく予定である。 円滑な議事進行にご協力をお願いしたい。
	教育長	7月4日の先進地視察では大変お世話になった。施設や教育の進め方が先進的であり、美里町の小学校統合に向けて参考になるものが多くあったと思う。 充実した委員会になるようお願いしたい。
3 議事	事務局	議事進行は委員長にお願いする。
議事（1）	委員長	議事（1）ワークショップについて、事務局から説明させる。
	事務局	議事（1）について、【資料1】をもとに説明する。 第2回ワークショップでは、事務局を含め47名で活発な意見交換を行った。 第3回は8月2日（土）に「中学校と小学校の多様な学び環境を考えよう」というテーマ

		で行う予定である。
	(株) E A	第2回では「美里らしい学校」、「なんでもできる学校」、「人と地域とつながる学校」の3つのテーマについて語り合った。参加者が理想とする学校像としては「子どもと大人が笑顔をつむぐ学校」、「自由につながるワクワクドキドキ学校」、「だれでも何でも学びあう学校」というものであった。小中学校が混ざり合うことや地域と学校が混ざり合うことを求めている意見が多く出た。これらを踏まえて本日の議事について審議いただきたい。
	委員長	挙手で質疑を受け付ける。 →質疑がないため、議事(1)は了承された。
議事(2)	委員長	議事(2) 先進地視察について、事務局から説明させる。
	事務局	議事(2)について、【資料2】をもとに説明する。
	委員長	先進地視察に参加した委員の皆様から、意見や感想を伺いたい。
	委員	小中一貫校というだけではなく、保育園も同じ空間にあることに驚いた。全部を真似できるわけではないが、新校舎に部分的にも良いところを取り入れていければと思う。
	委員	震災の関係で、この地域はゼロからスタートしたというが、子どもたちをどのように育てていきたいかという所にしっかりと共有されたコンセプトがあり、手を取り合いながら着実に一歩ずつ進んでいる印象があった。建物も画期的であったが、まずはどういう教育を目指すかが大切だと感じた。
	委員	我々が知っている学校とは違い、すごい学校だった。しかし、美里町で建設する小学校では、建設費の問題で同じようなものを建てるのは難しいと感じた。限られた予算の中で、今回の視察で良かったと思った所をいかに取り入れられるかが大切だと思う。
	委員	こんな建物が学校なのかと圧倒された。空間がとても広く、このような所で自分も学びたいと感じた。教育に関するコンセプトをしっ

		かりと持ち、それに合わせた校舎となっていた。子どもに合わせた取り組みが多くあったが、教職員に対してもあの学校で働きたいと思わせる学校になれば、教育もさらに伸びていくと思った。
	委員	当時の副校長から話を聞いたが、あの方のように教育に対する信念を持った人が中心にいるといい学校ができると感じた。また、視察先のようなフレキシブルな空間がこれからの教育に必要になってくる。児童生徒がこれから減っていくことが予想されるので、将来的に新陳代謝が図れる校舎を作っていくべきだと思う
	委員	図書館が中心にあり、小中学校が交流できるというのはお互いにメリットがあると感じた。授業の様子などたくさん話を聞くことができ、いろいろと考えさせられた。
	委員長	挙手で質疑を受け付ける。 →質疑がないため、議事（２）は了承された。
議事（３）	委員長	議事（３）小中一貫校と地域交流のメリットについて、事務局から説明させる。
	事務局	議事（３）について、【資料３】をもとに説明する。
	委員長	挙手で質疑を受け付ける。
	委員	小中一貫校は有効であると話があったが、私自身もそう思っている。ただ、前提条件があり、３校の行事や指導方法のすり合わせをし、調整しながら統一的な考えのもと統合しなければならないと考えている。小中連携は必要だとは思いますが、統合後いきなりすべて連携してやっていくには、教職員の過負担になる可能性も大きい。段階的に移行していくなど、丁寧な進め方が必要だと感じる。
	事務局	３校が１校になるだけでもかなりのエネルギーが必要だと思う。小中学校が隣同士に建つのはいい機会だと捉えてはいるが、やはり段階的に進める必要があると感じている。
	委員	子どもたちにどのような環境を与えてあげられるかが大切だと思う。美里町の財政を考えると１００億円はかけられない。他事例の

		いいところ取りをし、限られた予算の中で一番いい環境を作っていければいいと思う。
	委員	小中一貫校のメリットは説明いただいてわかったが、デメリットはどのようなものがあるのか。
	(株) E A	デメリットとして挙げられることが2点ある。1つは、6年生として学校の中でリーダーとなる機会がなくなり、リーダーシップを養う機会が減ってしまう点。もう1つは、9年間ずっと同じ仲間と過ごすことで、人間関係が固定化してしまう点が挙げられる。
	委員	9年間で人間関係が固定化されてしまうデメリットについて、解消する方法や具体的な事例はあるのか。
	(株) E A	地域と繋がるのが解消方法として考えられている。閉じた教育ではなく地域の方々に学びを得るなどし、繋がりながら学校生活を送ることで解消されると言われている。
	(株) E A	デメリットとして説明をしたが、たくさんの人間、他学年が混ざることに関係性の構築が上手になるというメリットがある反面、関係性が閉じてしまうというデメリットも同時に存在するという。コミュニティが閉じることより開くことを重要視している。
	委員	小中一貫校で校長が1人という例もあるか。
	教育長	校長が1人の場合は義務教育学校になる。国でも進めているものなので、そのような取り組みを進めているところもある。美里町の場合は、小中連携を進めていくが、あくまでも小学校と中学校は別組織として考えているため、それぞれに校長を置く形となる。
	委員長	質疑を受け付ける。 →質疑がないため、議事(3)は了承された。
議事(4)	委員長	議事(4) 必要な教室数について、事務局から説明させる。
	事務局	議事(4)については、事務局側で進行することについて、委員長に提案する。
	委員長	了承する。
	事務局	議事(4)について、【資料4】をもとに説明

		する。 中学校の１クラスの定員が、４０人から３５人へ引き下げられることが決定している。現在の中学校に十分な空き教室が見込めない。まずは、小学５，６年生の教室の配置について意見をいただきたい。
	委員	児童生徒数が減っていけば、いずれ中学校の校舎に配置ということも考えられるが、まずは新校舎に配置をした方がよいと考える。当面の間は、小中連携を進める土台作りを行い、将来的にそのような形になればよい。
	委員	統合前の４年生が新学年に上がったら、いきなり同級生が増え、さらに中学校の校舎に通うのは、子どもにとって負担が大き過ぎる。また、小中学校では、制服などルールが違うものもあり、教員がどのように指導していくかという課題もある。統合後すぐにではなく、やはり段階的に取り組むべきだと思う。
	委員	大沢小学校の児童は少ない人数に慣れているので、いきなり大人数の中に入っていくのはかなりハードルが高いと思うので、慎重に考えていただきたい。
	委員	環境が急にガラッと変わることにより子どもたちが対応できるのかと思うので、準備段階が必要だと思う。
	事務局	１クラスの定員が３５人になり、中学校でも教室数が必要になるということだけではなく、まずは子どもたちの環境をしっかりと整えてあげることが必要との意見でよろしいか。
	委員	一度にたくさんのことが変わってしまうのは、子どもたちにとっては大きな負担だと思う。段階的にということも大切だが、統合までの期間に交流を深めたり、教職員の意思統一をしたりなど、できることをやっていただきたい。
	委員	現在の小学校の人数を見ても、大沢小が１クラス１２人程度のところ、他の２校は３０人前後となっている。大沢小の子どもたちはいきなり何倍もの人たちとの学校生活に

		なるので、段階を踏む必要があると思う。
	委員	私は大沢小学校出身で、中学３年生の時に中学校が統合した。今と同じで大沢は人数が少なく、委縮していた記憶がある。慣れてから通いたいと当時思っていた。
	委員	やはり準備段階は必要だと思う。新校舎に５，６年生の教室を作ると将来的に空き教室が増えてしまうかもしれないが、小中学校の交流の場、地域との交流の場のように、他の使い方を考えていけばいいと思う。ワークショップでもそのような話が出ている。
	事務局	皆様の意見をまとめて、小学５，６年生の教室は新校舎に配置し、段階的に中学校との連携を進めていくという提案をさせていただきたい。
	委員長	事務局提案について、質疑を受け付ける。 →質疑がないため、議事（４）小学５，６年生の教室の配置については、事務局提案のとおり了承された。
	事務局	続いて、交流の場の有無について意見をいただきたい。
	委員	小学校と中学校が別々になるのであれば、そこを繋ぐ交流の場は確実に必要だと考えている。そういう場所をハブ化し、そこから各教室へ行くような動線が作れる配置にできれば良いと思う。小中学校の中心にそのような場所があるというのは非常に大きな役割を果たすと思う。
	委員	どれくらいの広さが必要かなどの問題もあるかと思うが、小学生と中学生が交わる場所が必要だと思う。
	委員	新しい小学校の校舎に共通の図書室を作り、ある程度の広さを確保すれば子どもたちが集い、そこで交流できるようになると思う。図書室のハブ化というのはとてもいい案なのではと思う。
	委員	現在コミセンが小学生のたまり場になっている。そのような場がもっと身近にあれば、自然と集まった中で小学生と中学生がコミュニケーションを取れるのではないかな。

	委員	視察で見てきたように、図書室が中心にあると自然に集まりやすいと思う。また、自習スペースのようなものができ解放できれば、高校生が帰りに寄って勉強できる。それにより高校生との交流もできる、というように繋がっていくと思う。また、図工や技術の授業をできるようにすれば、交流やハブ化がさらに進むのではないかな。
	事務局	ランチルームについても意見をいただきたい。
	委員	せっかくシンボリックなものを作るのであれば、図書室としてだけでなく、ものづくり、ランチ、地域交流など、固定の用途として使うのではなく、様々な用途で使えるような空間設計を考える必要がある。
	委員	カフェのようなものができれば、地域の方々も入ってきやすいのではないかな。放課後は生徒に店員をやってもらったりするのも良いかなと思う。
	委員	ピアノをランチルームと同じ空間に置くのも良いと思う。
	委員	視察先では音楽室とランチルームが一緒になっていて素敵だと思った。
	事務局	皆様の意見をまとめて、多目的・交流の場を計画に入れるということで提案をさせていただきたい。
	委員長	事務局提案について、質疑を受け付ける。 →質疑がないため、議事（４）交流の場の有無については、事務局提案のとおり了承された。
議事（５）	委員長	議事（５）配置計画について、事務局から説明させる。
	事務局	議事（５）についても、事務局側で進行することについて、委員長に提案する。
	委員長	了承する。
	事務局	議事（５）について、【資料５】をもとに説明する。 先程までの議事が出た意見も踏まえ、配置計画について意見をいただきたい。本日は意見

		をいただく場とし、次回の会議で具体的な提案をさせていただく。
	委員	特別支援教室と各種特別教室の配置を入れ替えた方がよい。特別教室は授業で使わない限り空き教室なので、常に子供がいる特別支援教室を目の届くところに配置したほうが良いと思う。
	委員	大きさをイメージできるように、多目的・交流の場の広さはどれくらいを考えているのか教えていただきたい。
	(株) E A	交流の場は 800 平米、240 坪を想定している。少し小さめな小学校体育館くらいの大きさ。
	委員	2 階だけで普通教室が 18 教室も入るのか。
	(株) E A	問題なく入る。教室や廊下が広いということが教育の充実につながるのは把握している。そのようなスペースを確保しても十分入れられる構想となっている。
	委員	18 教室を 2 階に設置する場合に、窓のない教室も出てきてしまう可能性があるか。
	(株) E A	すべての教室に窓はある。建築基準法で定められる換気や採光の基準をすべての教室で満たすよう配置する。
	委員	ランチルームは吹き抜けにするのか。
	(株) E A	すべてを吹き抜けにしてしまうと使い勝手が悪いので、部分的に吹き抜けを作る想定でいる。交流の場ということなので、上から見下ろせるような環境を想定している。
	委員	本日のこれまでの議事の中で多くの意見が出た。この配置計画に本日の意見をうまく落とし込んでもらいたい。
	委員	配置については、この提案で概ね良いと思っている。高さや広さの問題については、専門家の方に良く考えてもらいたい。また、資料 4 に戻ってしまうが、スペースに余裕があるなら更衣室も作ってもらえると管理がしやすくなる。
	教育長	中学校にも将来的には空き教室を利用するなどして更衣室を作らないといけないと思っている。

	事務局	学童については、担当課であるこども未来課と今後協議していく。
	委員長	質疑を受け付ける。 →質疑がないため、議事（５）配置計画については、本日の意見を踏まえ次回の会議で提案すると了承された。
議事（６）	委員長	議事（６）その他について、全体をとおしての質疑を受け付ける。 →質疑なし。
	委員長	事務局からその他はあるか。
	事務局	先日の議会全員協議会にて、議員の皆様中学校の南側の敷地拡張について報告した。今後、地権者への意向調査など用地取得に向け準備を進めていく。また、中学生の意見を聞くため、夏休みに入る前にアンケート調査を実施した。結果については、次回の委員会で報告する。
	事務局	質疑を受け付ける。 →質疑がないため、議事（６）は了承された。
４ 連絡事項	事務局	８月１９日（火）に第４回建設検討委員会を開催する。協議内容は、配置計画について、新校舎等に必要な設備について等を考えている。また、委員からの提案議題があれば、後日で良いので教えてほしい。 第３回ワークショップを、８月２日（土）に開催する。
５ 閉会	副委員長	第３回美里町立小学校検討委員会を閉会する。

以上の内容は会議の顛末を記したもので相違ないことを証するため署名する。

令和 7 年 8 月 28 日

委 員 櫻井 重美

令和 7 年 8 月 28 日

委 員 深町 元香